

開成館の歴史と現在の状況



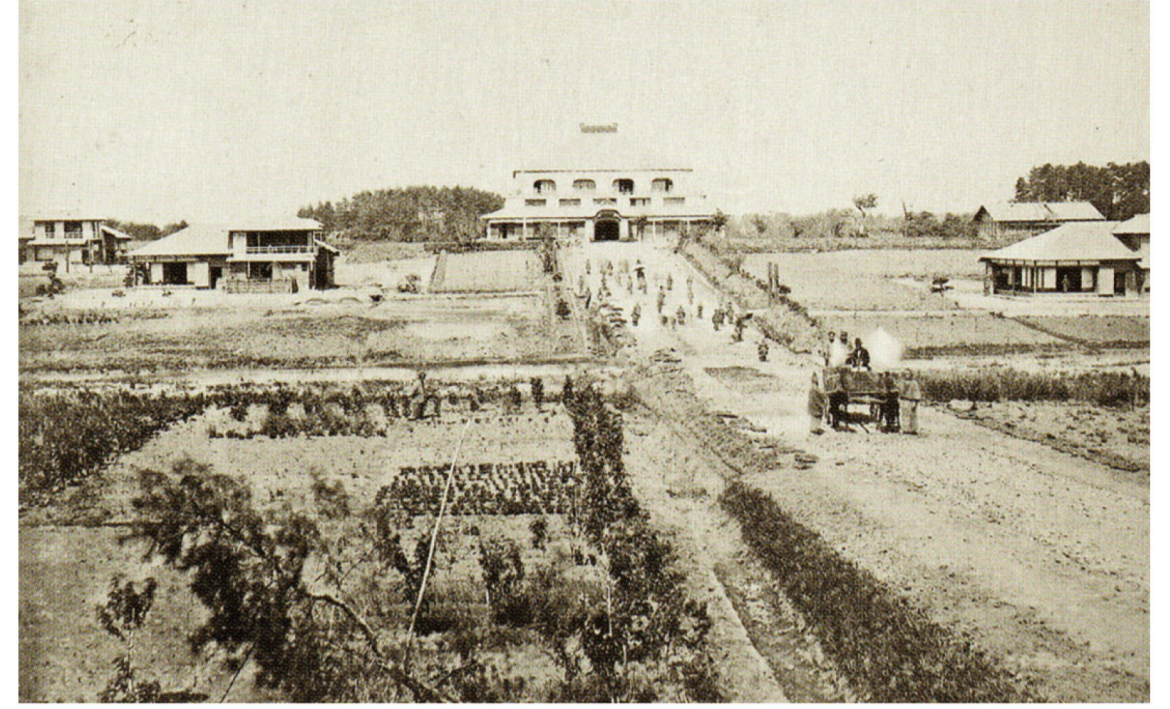
開成館の歴史

「開成館」は、明治7年(1874)に区会所(郡役所の前身)として建築された。当時は、洋風の建築法がまだ伝わっておらず、地元の大工たちが苦勞をして洋風に似せて建てた3階建ての擬洋風建築である。

開成館には、「福島県開拓掛」の事務所も置かれ、開拓事業の中心地であった。開成館は、昭和35年(1960)に福島県指定重要文化財となった。

平成21年(2009)には、経済産業省が認定する「近代化産業遺産」に認定された。平成28年(2016)に日本遺産「猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー『未来を拓いた「一本の水路」—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—』」が認定されると、開成館をはじめ、安積開拓官舎(旧立岩一郎邸)、安積開拓入植者住宅(旧小山家・旧坪内家)、そして安積開拓発祥の地が、日本遺産のストーリー構成文化財となった。

開成館は、近代郡山市発展のシンボルである。



福島県管下安積郡桑野村開成館の図
宮内庁三の丸尚蔵館蔵
『各地勝景三 明治九年巡幸関係・小笠原島ほか』より
明治9年ごろの開成館



被災前の開成館

現在の郡山市開成館の状況

郡山市開成館は、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により館内全ての建物が被災し、臨時休館となっていた。安積開拓官舎(旧立岩一郎邸)、安積開拓入植者住宅(旧小山家)、安積開拓入植者住宅(旧坪内家)は、令和4年度から令和5年度にかけて復旧作業を行い、復旧が完了したことにより、再開館となった。

開成館については、令和4年度に本格的な調査を実施し、令和5年度以降に大規模改修をする予定でおすすめしている。



福島県沖地震で被災した開成館の様子(3階ベランダ)



福島県沖地震で被災した開成館の様子(3階内部)



福島県沖地震で被災した開成館の様子(3階内部)



調査実施後の開成館内部の様子



郡山市開成館ウェブサイト
郡山市開成館の最新情報から安積開拓・安積疏水の歴史までご紹介しています